

『獨協大学外国語教育研究所紀要』 第10号（10周年記念号）の刊行によせて

外国語教育研究所長
浅岡 千利世

獨協大学外国語教育研究所は2021年度に設立10年目を迎え、研究所紀要も10周年記念号として第10号を発刊することができました。これも2011年度に新しく外国語教育研究所（通称AMANO研）として再スタートして以来、ひとえに関係の皆様方のご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

2021年度は2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染の影響を受けた一年でした。大学では対面授業と遠隔授業とを組み合わせたハイブリッド型授業が増え、多くの学会や講演会はオンライン開催が主流のままでしたが、オンラインイベントもニーズに合わせて進化を遂げつつあります。本研究所でも第11回公開講演会「学びをデザインする—高大連携と外国語教育のこれから」（講師：森朋子氏）はオンライン開催となりましたが、関東地方以外の遠隔地から多くの方がご参加下さり、質問や意見が活発に寄せられました。また、2022年2月に行われた第11回高等学校外国語教員との懇話会もオンラインで開催し、高等学校と大学の外国語の授業について、教授法や教育内容の面から充実した意見交換ができました。

紀要に関しましては、10号発刊を記念し柿沼義孝先生（初代本研究所所長）が特別寄稿下さり、これまでの獨協大学における外国語教育と研究についての振り返りを通して、本研究所の今後について示唆を与えて下さいました。また、今回は10周年記念号にふさわしく5本の論文、1本の実践報告および2本の研究ノートの計8点を掲載できる運びとなりました。大学は教育と研究の場であり、研究の成果がよい教育の基礎となります。研究員または本大学の教員それぞれが自由に外国語教育に関する研究成果を発表し、広く研究・教育界にその意義を問う場として紀要は重要な役割を果たしています。

執筆者の皆様をはじめ、査読を頂いた先生方および紀要編集委員会の委員の皆様のご協力によってここに記念すべき第10号を刊行できますことに心から御礼を申し上げます。また、本紀要をお読み頂く皆様方の忌憚のないご意見を賜りますと幸いです。